



ほほえみ日和

編集/JCHO東京山手メディカルセンター附属看護専門学校

発行/平成28年8月25日

〒169-0073

東京都新宿区百人町3-22-8



学校長 万代恭嗣

看護師と聞けば、どなたもこれがどのような職業なのか、自分が病気になったり保健の相談をしたいと思ったりしたときに、どのようなサービスを受けられるのか、などのイメージは直ちに思い浮かべることができるでしょう。一方で、看護師を育てる看護専門学校ではどのような教育が行われているのか、一般の方にはなかなか想像できないのではないのでしょうか。このニュースレターはその一端を紹介するために発行されることとなり、今回は第2号となります。

学校と一口にいっても色々な特色があり、これは看護学校だけを取り上げては当てはまることです。すなわち、校風あるいは伝統が存在します。学校の選択は、どこに入りたいかでなく、そこでいかに学べるか、学ぶかが大切です。したがって、当校へ応募しようとする方々、これを支援する人々、さらには一般の方にとって、当校でどのように教え、どのように学んでゆくか、をお伝えすることは、校風を広く皆様にお知らせするだけでなく、自身の特性や特色を確認することにもつながります。

このように書くと、やや堅苦しくなりますが、ニュースレターの題名は、いくつかの候補の中から学生達の多くの賛意で選ばれたと聞きます。校長として密かにこの題名を持つ歌を調べました。そこには、「大好きなこの場所で皆さんと歩んで行きたいんです」、「諦めず進むだけ 高鳴りに正直でいたいんです」、「どんな時だって凛々しく やってみたいんです」とあり、合点がゆきました。はじめは、人体の構造や機能する仕組み、そして看護の本質や手法を学ぶなどと紹介しようと考えていましたが、これらの言葉こそが、このニュースレターでお伝えしたい思いを適確に表しています。教える側の教員も同じでしょう。皆様には、気軽に最後までお読みいただき、当校の校風を感じていただければありがたいと考えております。

【教員から】

「母性看護学で学んでほしいこと」

母性看護学担当 木原博子



“母性“という言葉から、何を想像しますか。

母子保健法における母性、乳幼児の健康診査及び保健指導に関する実施要領において、「母性保健は、おおむね思春期より更年期にわたる年代の者を対象とし・・・」とあります。

つまり、母性看護学では、女性のライフサイクル各期における健康支援をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から学び、3年次母性看護学実習へと進みます。

母性看護学実習では、出産に立ち会う機会があります。陣痛が起こるメカニズムは、この時代においても十分解明されないほど、出産は神秘的で自然な営みです。母親は全力で出産に臨み、胎児もまた狭い産道を回旋しながら通過し、母と子は共にお辞儀をしながら産まれてきます。女性に備わる“産む力”を十二分に発揮できるよう、ぜひ、産婦さんの望むケアを、集中して気持ちを込めて行ってみるとよいでしょう。

ある産婦さんは出産した瞬間、先ほどまでの姿とは見違えるようなおだやかな表情となり、産声をあげる我が子

を見て「生まれてきてくれてありがとう」と、手を伸ばし触れていました。その場面に立ち会った皆さんの先輩は、母親の言葉がとても印象的であったと話し、“こんなにも母親は瞬時に切り変わることができすごい”と驚いていました。出産は命がけです。しかし、それ以上に、子を想う母の気持ちを知り、母親の凄さを感じていたのかもしれない。みなさんも心動かされ、あなたの心に何かを残す経験をするのでしょうか。それだけ生命誕生に関わる経験から学ぶことは大きいのです。

また、皆さんが実習で、初めて新生児を抱く時の感情を大切にしてください。母親や父親の抱く気持ちに、一步、近づくことができますと思います。母性看護学は生命の根源に携わる学問です。学習を通して、命の尊さや生命を尊重する姿勢、価値観を養ってほしいと考えています。





戴帽式

2年生 東條莉央

去年戴帽式を見たとき、先輩が厳粛な空気の中力強く誓う姿に感動し、憧れの行事となりました。しかし同時に自分たちとの差を強く感じ、来年このような式を行えるか不安も感じました。

1年間、基礎から学習を始め、座学や看護技術を通して様々な学びを得ました。クラス全員で誓詞の解釈を考えたとき、1つ1つの言葉に沢山の思いや考えが生まれ、あっという間の1年間に多くの学びがあったと実感しました。また、実際に患者と接する実習を通して看護観が広がったように感じました。戴帽式では、自分たちが誓いたい思いや意志の全てが含まれているとクラスの意見が一致し、「ナイチンゲール誓詞」を誓いのことばとすることに決めました。

話し合いをしていく中でクラスの団結力が高まり、戴帽式に向けて気持ちを一つにすることが出来ました。さらに、看護師に一步近づいた実感と共に、自分たちが多くの人に支えられていると再確認しました。感謝の気持ちを常に持ち初心を忘れずに、これからの看護という道を、誓いを胸に進んでいく決意が湧きました。



誓いのことば

私たちは初志貫徹する強さと感謝の気持ちを常に持ち続けここに誓います

ナイチンゲール誓詞

われは、ここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん。わが生涯を清くすごし、わが任務を忠実に尽くさんことを。

われは、すべて毒あるもの、害あるものをたち、悪しき薬を用いることなく、また知りつつこれをすすめざるべし。

われは、わが力の限りわが任務の標準を高くせんことを努むべし。

わが任務にあたりて、取り扱かえる人々の私事のすべて、わが知りえたる一家の内事のすべて、われは人に洩らさざるべし。

われは、心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん。



入学して



1年生 菊地 愛

この学校に入学しておよそ4ヶ月が経ち、今までとは違い職業人になるための勉強をしているのだと日々感じます。

生活する都市も、共に学んでいくメンバーも、授業内容も、高校までの生活とはなにかもが変わった4月。迎えた入学式では、先生方や病院の方の祝辞の言葉の中に暖かさ看護の道を進むことへの責任感を感じ、身が引き締まりました。

期待と不安と将来のビジョンを抱き、3年間の学習を楽しむに思う反面、勉強についていけるか、覚えることができるか、また精神的・肉体的にも「本当に私にできるのだろうか」という不安があります。しかし自分の気持ち

を整理し、不安を少しでも解消できるよう日々の学習を頑張ります。

病棟実習も少しずつ始まり、学ぶことも増えてきました。まだまだ看護学生として未熟ですが、学習内容をしっかり復習し、それを土台に新しい知識や経験を積み重ね患者さん個々に合った看護が行えるようになりたいです。



学生からひと言

学びの窓

授業・実習から



「人体の構造を学び看護技術へ」
1年生 田上 弥千代

入学して4ヶ月が経ち、学ぶ内容も日々、増えてきました。看護の基本となる解剖生理学では、消化・呼吸・循環と人体の構造と機能について学び終えたところです。私たちの身体はたくさんの細胞からできており、それが集まり臓器となり、それぞれの役割を果たしています。学ぶ内容も多く、難しいと思う反面、知識が増えていき嬉しいです。日々の生活の中でも、健康を改めて意識するようになりました。それとともに、看護技術では、患者さんに安全で安楽な看護を提供するために、私たちの身体への負担も考慮しつつ、行っていく必要があります。それにはもっと人体の構造と機能の知識を増やしていくとともに、ボディメカニクスを意識することが必要であり大切だと思います。患者さんや周りの人のためになれるよう、日々学んでいきたいです。



「看護過程展開の基礎実習」
2年生 野口 真緒

私たち2年生は10月に「様々な場で生活する高齢者の看護実習」を終えました。わたしはこの実習で、高齢者の方々はこれまで過ごしてきた中で価値観や信念、生活リズムがあり、それらが生活の基盤となっていることがわかりました。そのため、入院生活において看護師はそれぞれの価値観や性格を尊重し、配慮しながら接していくことが重要だと感じました。また、それぞれの価値観や信念、生活リズムを理解することでその対象に合った援助を実施できるようになります。それには日々の対象との関わりを大切にし、その中で情報収集を行い、対象を理解することがよりよい援助に繋がっていくことを学びました。

さらに、回復（退院）後の生活にまで目を向けて具体的な援助や支援法を考え、実施していくことで対象の自立を促すことになるということを学びました。

これらの学びを今後の各論実習に活かして取り組んでいきたいと思っています。



「精神に障害のある人の看護実習」
3年生 秋元 夏穂

精神科病棟に入院されている患者は過去に大きな問題を抱えており、それが引き金となって他者とのコミュニケーションが上手く取れない患者や感情の変化が激しい患者が多い。受け持たせて頂いたA氏は統合失調症と境界型人格障害を持つ女性患者で、他患者への過干渉があり、他患者とのトラブルを繰り返していた。A氏とのかかわりではやりたくないことを無理強いしてもそれがストレスにつながり、症状を助長させてしまうことになると考え、少しでもストレス緩和できるような気分転換を促す関わりをした。A氏のその日の状態に合わせて気分転換になることを提案し、ストレス緩和に効果的だったことは継続して促すようにした。A氏との関わり方について悩むことも多い実習だったが、自分が提案したものをA氏が笑顔で楽しんでいる様子を見ると嬉しい気持ちになった。精神に障害のある人々の看護実習においては、今日の自分の関わり方はどうだったのか、改善点はあったのかを日々場面ごとに振り返ることが大切だった。一般科と異なりケアが中心の実習ではなくコミュニケーションが中心の実習だったため、自分のコミュニケーションの傾向について知る良い機会となった。この実習での学びを生かし、今後も振り返りを大切にして、患者によりよい効果をもたらせるように関わっていきたい。



オープンキャンパス 平成28年度 7月



技術体験

毎年恒例のオープンキャンパスを、学生募ランディアのご協力を得て、7月25日、27日に行いました。

毎年、学生の皆さんの参加者の方への関わりがとてやさしい、丁寧と好評です。

看護を目指す理由は様々です。交流会では、皆さんの後輩となりうる参加者の方へ、看護を学ぶ者として、進路や学習などについて、実際の様子をお話しして頂きとても喜んでいただいています。参加されたみなさんが、素敵な看護師を目指したい☆と夢を膨らませて受験できるといいですね。

これからもご協力をよろしくお願いいたします。

MEMO

好評♪ 交流会♪

学生の対応が
やさしく
丁寧
生の声が聴けて
よかった。



アンケート結果!

オープンキャンパスは

いかがでしたか?



ベトナムメイクとか血圧とか色々体験できて、交流会で沢山お話ができた。学生さんが優しく、短時間の中で看護師になりたい思いが強くなりました。設備の利点がわかりやすく、学生の方の対応が非常に良かったです。在校生の方が、にごすことなく全ての質問に答えてくれました。飾らない雰囲気学校の良さを感じました。と言ったご意見を頂きました。

病院見学の 感想

病院の様子が
わかってよかった!

